



第3次別海町生き抜く力アッププロジェクト 『ふるさとと教育』

全国的に、特に地方の人口減少と少子化が進む中、本町では「目の前の子どもたちの未来を見据えた教育」および「『ふるさと 別海』を支える教育」を柱として推進しています。

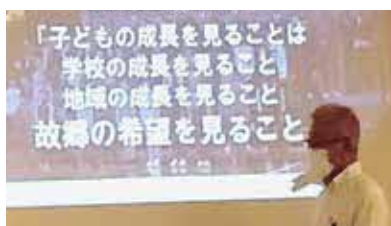
■コロナ禍における教育課題

今回のコロナ禍で、子どもたちは、一斉休校により、4月20日から5月31日を家で過ごすこととなりました。学校は工夫した課題等を配布するなどしてきましたし、文科省や北海道教育委員会もネット等でさまざまなコンテンツを配信するなどしてきました。しかし、苦勞してコンテンツを配信しても、ゲーム等に多くの時間を費やし、子どもたちが自ら学びに向かうことになっておらず「主体的で自立した学び」が、全国的に、そして本町でも課題として浮き彫りになりました。



■ふるさとと教育の推進

主体的で自律ある学びをするためには、ただ、学習を一方向的に与えるのではなく、子どもたち自身が「学び」について主体的に考える必要があります。場としての「地域」に愛着と誇りを持つために、地域をより知りたい、良くしたいと考えること、そして時間軸として自分の将来について考え、そのために「なぜ学ぶか」というこの二つのことが大切です。これらを達成するために、本町ではコミュニティ・スクール等を通じて地域と連携し「ふるさとと教育」を進めていきます。



※「ふるさとと教育」については、本年度教育長が全学校区で本格実施となった学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の場で説明しています。

■魅力ある副読本の作成

「ふるさとと教育」の取り組みとして、現在、ふるさととべつかいに興味と感心を持ち、好きになれるように、べつかいの良さを知ることができる、魅力ある社会科副読本の作成に取り組んでいます。

～現在、作成中の社会科副読本の一部です。より魅力的なものになるように作成中です～

「見て・知って・わかって・好きになる」を目的に、地理や歴史、産業など別海町のさまざまなことが学べます。

また「深く学ぶ」ことができるよう、二次元コードを活用することでウェブ上の情報を取り出すことも可能となっています。



別海町教育委員会 TEL75-2111（内線3503）